

環境教育関係事業について

1 はじめに

本市では、「札幌市環境教育・環境学習基本方針」(以下「本方針」という。)に基づき、環境教育・環境学習の取組を推進しています。

誰もが、これからもずっと安心して暮らしていくためには、一人一人が身近な環境について真剣に考えて、行動する必要があります。本方針は、今のことだけではなく未来のこととも想像し、自分のことだけではなく周りにいるみんなのことを思い、そして、生き物同士のつながりなどの地球環境のことを真面目に考えて、やるべきことを自ら判断し、積極的に取り組む「環境市民」を、学びを通して増やすことを基本理念としています。

本方針の第4章には、人々が環境問題を理解し、環境保全の行動を進め、さらに多くの人に行動が広がるよう、札幌市が主体となって推進する四つの取組として「学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進」、「環境人材」の育成、「環境教育・環境学習の場と機会の充実」、「普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し」が示されています。

本資料では、環境局環境都市推進部環境政策課等が行う環境教育関係事業に係る令和4年度の実施状況及び令和5年度の実施予定について、これら四つの取組に沿って報告します。

札幌市が主体となって推進する環境教育・環境学習に関する取り組み

札幌市環境教育・環境学習基本方針で定めた4つの取り組み

- (1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進
- (2) 「環境人材」の育成
- (3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実
- (4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

2 令和4年度実施状況及び令和5年度の実施予定について

(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進

ア 環境副教材・教師用手引書

毎年度、市立小学校の新1、3、5年生の全児童に環境副教材を配布しており、それぞれ2カ年にわたって利用いただいています。また、併せて教師用手引書も作成しています。

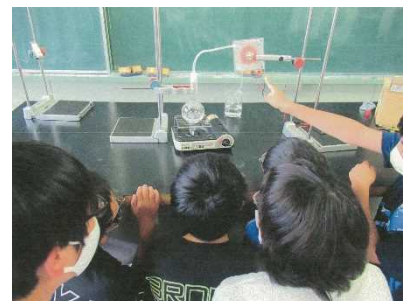


より利用しやすい副教材・手引書とするために、「理科」「社会科」「家庭科」「生活科」「特別な教科 道徳」の各担当教員によるワーキンググループを組織して毎年度、改訂作業を行っています。(参考資料1)

イ 環境教育へのクリック募金

インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、協力企業（現在は7社）の環境活動を紹介しており、閲覧数に応じた金額（1クリック5円、月額上限2万円/社）を協力企業からご寄附いただき、それを原資に環境教育教材を購入し、希望する小中学校へ寄贈しています。

令和4年度は、令和3年度のクリック実績に応じて、協力企業様から合計168万円ご寄附を頂き、小学校34校、中学校6校の40校全ての希望校に手回し発電機、気体検知管、トマトやキュウリ等の野菜の苗などを寄贈しました。



環境教材を使った実験

今年度は、計74校と、昨年度に比べ約2倍の申し込みがあり、寄附金額を大きく上回ったことから、やむを得ず抽選により45校の寄贈校を選定しました。今後、順次寄贈を行う予定です。

なお、クリック募金のホームページ上には、寄贈された環境教育教材が各学校においてどのように活用されたのかを「事業報告書」として紹介しています。(参考資料2)

また、委員から協力企業についてもっと周知したほうが良いとのご意見をいただいたため、昨年度は下記の啓発を行いました。

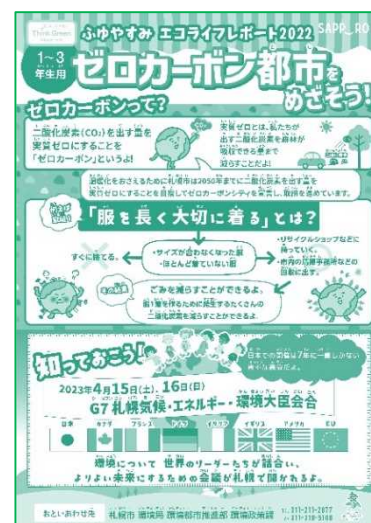
- ・啓発パネルを作成の上、環境広場さっぽろ等のイベントでの展示
- ・札幌商工会議所の会報誌 9 月号への記事掲載
- ・地下鉄駅掲示板にポスター掲示
- ・三角山放送局の SDGs トークコーナーでの宣伝

ウ エコライフレポート

子どもたちが声掛け役となって、家庭におけるエコ行動を促す取組として、平成 19 年度にスタートした事業です。

夏休み及び冬休みの前に、市立小中学校の全児童・生徒に対して、家庭で取り組むエコ行動を選んで実践できるチェック表を配布します。

令和 4 年度は「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズとして、冬休みは節電やごみの分別に取り組んでもらう内容としました。また、レポートには、2023 年 4 月 15 日、16 日に「G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」が開催され、世界のリーダーが環境について話し合い、よりよい未来にするための会議が札幌で開かれることを知ってもらうための記事を掲載しました。



また、学校単位で子どもたちの取組結果を二酸化炭素削減効果に換算し、これを記した「認定証」を配布しており、子どもたちが自ら考えて実践した取組の中でユニークなものについては、認定証の中に「他にもこんな取組をしてくれました」という欄を設けて紹介しています。

今年度の夏休みは、引き続き「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズに、節水や節電に取り組んでもらう内容とするとともに、熱中症対策に関する記事を掲載しました。(参考資料 3)

なお、昨年度からは、紙のエコライフレポートを各学校で回収・保管し、環境局において集約・集計するという一連の事務作業の負担を軽減するため、教育委員会と協議し、一人一台配布されているタブレットのウェブアプリケーション「Google フォーム」を使用し、各児童・生徒がタブレットに取組結果を入力してもらう形式に変更することとしました。夏休みは、学校の先生が生徒の入力状況を確認できないシステム仕様であった等の問題が

あり、例年と比べ取組率が低下してしまいました。そのため冬休みは、学校の先生が生徒の入力状況を確認できるようにシステム仕様を一部変更し、学校毎にグーグルフォームを使って児童が入力した一覧表を環境局に送付してもらう方法で行いましたが、操作不慣れ等により一部の学校から一覧表が送付されず、取組学校数が減ってしまうという結果となりました。これを踏まえて、今年度は、入力マニュアルの改訂等により学校のフォローをしてまいりたいと考えております。

児童・生徒の取組状況

年度	取組学校数[校]		児童・生徒数 [人]		取組人数 [人]		取組率 [%]	
	夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬
平成 30 年度	301	300	133,230	133,419	126,654	124,161	95.1	93.1
令和元年度	299	298	132,935	133,038	126,859	124,282	95.4	93.4
令和 2 年度	295	298	132,842	133,133	124,874	124,977	94.0	93.9
令和 3 年度	296	296	133,335	133,335	125,221	123,329	93.9	92.5
令和 4 年度	297	273	132,541	123,064	108,614	105,814	81.9	85.9

エ 校外学習用バス貸出

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小中学校を対象に校外学習用バスの貸出事業を行っています。

学校現場のニーズなどを踏まえ、平成 28 年度から市外近郊や民間施設も見学対象施設に加えて、太陽光発電や風力発電の設備、LNG（液化天然ガス）基地などを校外学習モデルコースに組み込みホームページで紹介しているほか、各学校が独自に希望する見学先についても対応しています。

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、児童・生徒が座席間隔を空けて乗車できるよう 1 台当たり 25 名定員とし、10 月 1 日から 11 月 30 日の期間に、35 校に貸出をしました。（参考資料 4）

今年度は、できるだけ多くの学校に貸し出せるよう、1 台当たりの定員をコロナ禍以前の状態に戻し、貸出期間を 7 月から 12 月中旬に設定しました。全部で 94 校の応募があったことから、抽選により 52 校を貸出対象校としましたが、今春の新型コロナウイルス感染症の 5 類引き下げに伴う観光需要の増加や、バス台数や運転手の不足から、バス貸出業務に応札するバス会社がおらず、入札不調となってしまいました。このため各バス会社への聞き取りを実施したところ、11 月以外のバスの確保は厳しいとのことで、7～10 月、12 月に校外学習を予定している各学校には、個別に

バスを調達していただくようお願いをしております。また、11月に校外学習を予定している学校分につきましては、各学校に希望を聞き取った上で、再入札を実施することを検討しております。

[バス貸出実績推移]

	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
応募校数	49 校	46 校	-	29 校	57 校
利用校数	49 校	46 校	-	29 校	35 校
バス利用台数	98 台	96 台	-	94 台	114 台

校数・バス利用台数は延べ数。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

< 主な見学先（令和4年度） >

見学先	見学校数（延べ）
円山動物園	15 校
下水道科学館	12 校
環境プラザ	6 校
さけ科学館	5 校
水道記念館	3 校
モエレ沼公園	3 校
博物館活動センター	3 校

オ 学校での出前講座の実施

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環として、市職員が依頼に基づいて地域に出向き、所管事業について分かりやすく説明を行う「出前講座」を実施しています。

近年は、SDGs の普及や地球温暖化・気候変動への関心の高まりにより、これらの講座への依頼が増えており、総合学習などの授業の一環として活用されています。

【SDGs、地球温暖化・気候変動に係る出前講座・授業等実績】

	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
小学校：件数 （参加人数）	6 件 （438 人）	4 件 （368 人）	2 件 （180 人）	5 件 （351 人）	4 件 （214 人）
中学校：件数 （参加人数）	1 件 （18 人）	2 件 （59 人）	6 件 （1,033 人）	8 件 （1,202 人）	4 件 （798 人）

高等学校：件数(参加人数)	1 件 (30 人)	9 件 (1,572 人)	2 件 (40 人)	4 件 (365 人)	5 件 (960 人)
合計：件数(参加人数)	8 件 (486 人)	15 件 (1,999 人)	10 件 (1,253 人)	17 件 (1,918 人)	13 件 (1,972 人)

カ 環境に関する全園・全校の取組【教育委員会】

教育委員会では、「環境首都・札幌」の宣言日である 6 月 25 日の前後 2 週間を「さっぽろっ子環境ウイーク」期間とし、この期間中、エコスクール宣言校である全ての市立園・学校が、環境に関わる取組（エコアクション）を重点的に見つめなおすことで、年間を通して、札幌市の幼児児童生徒に環境を守り育てようとする態度を育んでいます。昨年度は、札幌市立高校の生徒たちが環境問題について探究し、札幌市立小中学校の児童・生徒に問題提起を行うためのアニメーション動画「シマエナガちゃんとまなぼうっ！！」を高校生自身の手で制作するとともに、令和 5 年 4 月 15 日（土）・16 日（日）に開催した「環境広場ほっかいどう 2023」で本取組について発表を行いました。

今年度は、札幌市立小中学校で、「さっぽろっ子環境ウイーク エコアクション」として、児童や生徒が本動画や倉本聰氏のメッセージ動画（オで後述）を視聴し、環境に関する問題を考え、取組を実践していく予定です。（参考資料 5）



「シマエナガちゃんとまなぼうっ！！」の 1 コマ

(2) 「環境人材」の育成

ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣【環境プラザ】

市民団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

「札幌市環境保全アドバイザー派遣制度」は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等など、様々な環境分野の研修会や学習会等に専門家を派遣する事業で、令和 5 年 6 月 1 日現在、9 人のアドバイザーに登録いただいています。

「札幌市環境教育リーダー派遣制度」は、主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導者や解説者を派遣する事業で、令和5年6月1日現在、23人のリーダーに登録いただいています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を取りながらも自然体験活動や研修会を再開、新規実施する団体が増えてきており、例年利用している団体に加え、小学校や企業等新規団体も増加傾向にあります。

なお、近年、複数のリーダーの派遣が必要となる川での水生生物観察会や幼稚園・保育園における自然体験会などの申込みが増加していることから、今年度は、令和6年度からの新たなリーダーを募集する予定です。

【派遣実績】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
環境保全アドバイザー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	40件 (1,530人) <13人>	39件 (1,764人) <12人>	17件 (304人) <11人>	15件 (327人) <11人>	18件 (479人) <10人>
環境教育リーダー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	75件 (2,175人) <32人>	57件 (1,736人) <31人>	32件 (798人) <29人>	36件 (833人) <28人>	64件 (1,463人) <26人>

イ こどもエコクラブ【環境プラザ】

環境プラザは、公益財団法人日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌市内における事務局を担っており、こどもエコクラブへの登録団体及びこれから環境に関する活動を始めようとする団体への情報提供を行っています。

令和3年度から、環境プラザが自ら運営するこどもエコクラブを立ち上げ、「さっぽろあそエコ団」として活動を行っています。今年度は市内外の川や公園、山、海での自然体験活動4回を含む全9回を実施・予定しており、季節ごとに変化する自然の楽しさを継続的に体験する内容を企画しています。

ウ 指導者向け研修【環境プラザ】

教員や保育者など、子どもたちへ伝える立場の方を対象に、環境教育や環境保全活動をテーマとした講座等を実施しています。令和4年度は児童会館職員100名に向けて環境プラザの見学ツアーをとおして、職員の環境保全の意識向上を目指すとともに、環境プラザの活用方法を紹介し、各児童会館での利用促進を計りました。

今年度も児童会館と共催で公益財団法人キープ協会と連携した、体験活動に関する研修を企画しております。その他幅広い指導者を対象として自然体験活動における危機管理やプログラムデザイン等の講座を企画・検討しています。

エ 環境教育・子どもワークショップ

これからの未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な行動につなげるきっかけとなることを目指し、令和2年度から「環境教育・子どもワークショップ」を開催しています。

昨年度は、「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」の開催記念事業として、令和5年1月21日（土）及び28日（土）に、各日5か所ずつ、計10か所の児童会館に通う小学生（2日間計62人）を対象として開催しました。

ワークショップは、本部のメインファシリテーターから児童会館の各会場にオンラインでプログラムを配信し、各会場では現地のファシリテーターの誘導により子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで各会場とも意見交換するなど、オンラインと対面をミックスして行いました。

併せて、環境教育に興味があり、ワークショップ等のスキルを身につけたい高校生・大学生などの若い世代の人材育成にも同時に取り組むこととし、希望する若者を対象にファシリテーター等の養成研修会を実施し、受講した12人には子どもワークショップの運営スタッフの一員として活動してもらいました。

ワークショップで作成したグラフィックレコーディング（議論の内容や提案を絵や図形を使って模造紙にまとめたもの）は、令和5年2月の雪ま

つり期間中に札幌駅前地下歩行空間において、また、令和5年4月15日（土）・16日（日）に開催した「環境広場ほっかいどう2023」において、それぞれ展示を行いました。

実施後のアンケートで8割以上の参加者（無回答除く）が「楽しかった」「また参加したい」と回答しており、満足度の高い取り組みであったといえることから、今年度も同様のスタイルにより引き続き実施する予定です。（参考資料6）

オ 教員に向けた研修【教育委員会】

教育委員会では、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、「環境教育へ役立つ施設の活用」や「SDGsの基礎」など環境教育に関する専門的研修を実施し、今年度も延べ60人以上の教員が受講する見込みとなっています。

(3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実

ア 学習支援等【環境プラザ】

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、教材の貸し出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っています。

令和4年度は、月1回の「あそびバ！エコプラザ」において、ゲームや紙芝居、製作体験などを利用した環境学習の支援事業を行いました。

今年度はSDGsに関する見学プログラムを新規作成し、提供していく予定です。

イ 各種講座等の実施【環境プラザ】

令和4年度は、環境プラザで毎年開催している幼児親子向けの自然遊び体験事業を札幌市定山溪自然の村と連携し実施しました。秋と冬に日帰り編と宿泊編を各2回ずつ実施し、全身で自然を体感するプログラムを提供しました。

今年度も引き続き札幌市定山溪自然の村と連携し、新たに夏を加えた、日帰り編全6回を実施する予定です。通年利用している北大構内と自然の

村のフィールド以外に、今年度は新たに中島公園もフィールドに加え実施する予定です。

ウ さっぽろこども環境コンテスト

小中学生が日頃、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストとして、平成20年度から実施しています。活動の発表を通じて、周囲の子どもたちのほか、大人たちにも活動の輪を広げていくことを目的としています。

令和4年度は「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」の開催記念事業として実施しました。新型コロナウイルスの影響により、令和元年度までのステージ発表に代え、札幌市環境プラザを本部とし、各発表団体の会場をリモート(ZOOM)でつなぎ、本部の司会進行のもと、オンライン形式で各団体に発表していただく形式として実施し、発表の様子は後日審査結果と共に札幌市HPに公開しました。



さっぽろこども環境コンテストの様子

今年度は、なるべく多くの団体が参加できるような形式での開催の検討を進めていきます。(参考資料7)

[令和4年度発表団体] : 最優秀賞受賞団体 ○: 優秀賞受賞団体

学校外団体の部	小学校の部	中学校の部
○旭山自然調査隊	○美しが丘小学校6年生	○青葉中学校
北野台児童会館 KDGs クラブ		米里中学校科学部
○栄西児童会館 こどもエコクラブ タッピーファーム		
○さっぽろあそエコ団		

審査員長 北海道大学大学院文学研究院 教授

審査員 NPO 法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト理事長

審査員 札幌平岸高等学校 学校長

審査員 札幌市環境局環境都市推進部長

大沼 進 氏

坂本 純科 氏

黒宮 裕久 氏

菅原 祐雄

(4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

ア 環境プラザホームページ等【環境プラザ】

環境プラザでは、講師派遣や貸出教材、事業などについてホームページで情報提供を行っている他、フェイスブックや昨年度から運用を開始した Instagram での投稿や、「エコチャン!! - 環境プラザ YouTube チャンネル」での動画配信で情報発信を行っています。

【ホームページアクセス件数】

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
環境プラザHP	76,950	73,648	103,999	106,612

イ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み【環境プラザ】

「環境中間支援会議・北海道」は、行政や地域など、様々な組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議です。環境省北海道環境パートナーシップオフィス（通称：EPO 北海道）、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザが連携して、北海道内における様々な環境活動の支援を行っています。

また、環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして、定期的に参加される会議に参加しています。

なお、ホームページ「環境 ナビ北海道」において、環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しています。

ウ 環境広場さっぽろ 2022・環境広場ほっかいどう 2023 の開催

「環境広場さっぽろ」は、子どもたちを主たる対象に、環境教育を目的とした「未来を想う総合環境イベント」です。平成 30 年度、令和元年度は札幌ドームを会場に開催しました。

令和 2 年度、令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、札幌ドームでの開催を見送り、札幌ドームをモデルとした仮想空間を会場とするオンラインイベントとして開催しました。

令和 4 年度は、「環境広場さっぽろ 2022」を、令和 4 年 7 月 30 日（土）31 日（日）の日程で、3 年ぶりに札幌ドームで開催しました。（期間中来場者 15,234 人、バーチャル会場アクセス数 6,036 人、217 企業・団体が

出展)

今年度は、G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合実行委員会主催事業として、たくさんの北海道民・札幌市民の方々に楽しみながら環境・SDGsに関心を持っていただくとともに、環境ビジネスの振興等を目的とした展示・体験イベント「環境広場ほっかいどう 2023」を、大臣会合の開催に合わせ令和5年4月15日(土)、16日(日)の日程で、札幌ドームで開催しました。(期間中来場者 56,199 人、オンラインイベント参加者数 7,268 人、161 企業・団体が出展)(参考資料8)



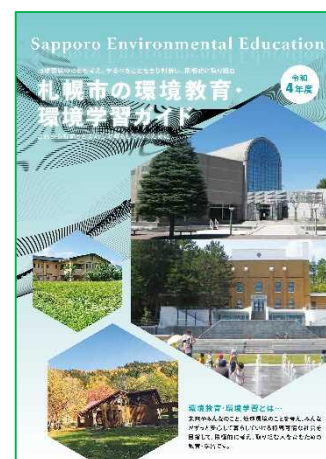
環境広場ほっかいどう 2023 の様子

エ 「環境教育・環境学習ガイド」の発行

「札幌市環境教育・環境学習基本方針」に基づき、環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて、札幌市の各部局が行っている取組をまとめた「環境教育・環境学習ガイド」を毎年度発行しています。

学校や市民への広報、情報提供を行い、各取組への市民参加を促進し、環境教育・環境学習の一層の推進を図ります。

併せて、札幌市各部局の環境教育・環境学習に対する意識を高め、基本方針の趣旨に沿った事業展開を促します。



オ 倉本聰氏メッセージ動画

G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合大臣会合の開催にあたり、脚本家・劇作家・演出家である倉本聰氏より、環境に関する「北海道から世界へのメッセージ」をいただいたことから、このメッセージを紹介する動画を作成しました。

この動画を、大臣会合前日の令和5年4月14日（金）に開催した地元主催レセプションにおいて、参加したG7各国・招待国の代表団などに向けて放映するとともに、後日札幌市HPに公開しました。

動画は、前述の「さっぽろっ子環境ウイーク エコアクション」で札幌市立小中学校で児童や生徒に視聴してもらうなど、大臣会合をきっかけとする環境問題に対する札幌市民、北海道民などの関心を高め、行動の変化につなげるために活用していく予定です。